

平成 27 年度 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会 各部会の開催報告

6 部会：子ども支援部会、地域移行支援部会、暮らし支援部会、相談支援部会、
就労支援部会、権利擁護部会

■子ども支援部会

◆開催日時

【第 1 回】平成 27 年 8 月 4 日（火）

【第 2 回】平成 28 年 1 月 28 日（木）

【第 1 回】

◆メンバー 21 人

西濃圏域発達障がい支援センター、いかわクリニック、岐阜聖徳学園大学、
県立不破高校、西濃保健所、大垣公共職業安定所、教育研究所、
相談支援事業所ゆう、就業・生活支援センター、障がい者就労支援センター、
ひまわり学園、市学校教育課、市子育て支援課、市社会福祉課事務局

◆テーマ

「高校段階での発達支援のあり方と今後の支援体制づくりについて」

◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・高校段階での発達特性のある子どもの課題を共有し、中学卒業後の支援体制のあり方について検討を行った。
- ・知的な問題はなくても発達に特性のある生徒がいる。そのような生徒が学校に適合できず不登校になる場合が多い。県では、高等学校発達障がい支援研究指定校を置くなどして、支援の枠組みを作り始めている。
- ・小・中学校までは、大半が同じ校区のため支援方法等について引継ぎしやすいが、高校は地域を離れてしまう場合があるので支援がうまく繋がっていかないのが現状。中学校と高校間で移行支援を行うことが重要である。
- ・就労支援機関での成人の支援においては、過去の本人の重要な情報が欠落しており体系的な支援が難しく苦慮している。学校、医療機関の情報などスマイルブックの活用により、過去の情報提供が必要である。
- ・今後はスマイルブックを活用し、導入時におけるアセスメントで情報収集をおこないケア会議などの場を設け、他機関と連携しながら全体でスキルアップしていきたい。

【第2回】

◆メンバー 21人

ひまわり学園、のとよーび、みるきいうえい、ラディアントスマイル、きょうあい、チャイルズスプリング、ラディアントステップ、らしかラボ、ピュアチャイルド、すてっぷ、COLORS大垣、Oasis、市社会福祉課事務局

◆テーマ

「放課後等デイサービスにおける子どもの特性に合った支援について」

◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・市内放課後等デイサービス事業所の支援内容について説明を行った。
- ・「放課後等デイサービスの役割」をテーマに西濃圏域発達障がい支援センターから講師を招き、放課後等デイサービスの基本的役割についてお話いただき、市内にある放課後等デイサービス事業所が提供する支援内容の質の向上を図った。
- ・アセスメントやモニタリングを行い、個別支援計画を作成することは当然であり、学校とも連携し、それぞれの特性に合わせて支援を行っていくことが大切である。
- ・放課後等デイサービスの根幹である「障がいのある学齢期の子どもの健全な育成をはかる」ため、個別支援計画を作成し、個々の状況に応じた発達支援を行う必要がある。
- ・障がい特性、指導テクニックなど従事者の質の向上を図ることで、他機関との連携や支援体制が機能する。
- ・子どもに対する考え方、見方がしっかりしていないと、「ただ預かるだけ」になってしまい、子どもの発達支援という最も大切な視点がぼやけてしまう。
- ・子どもの支援だけでなく、保護者支援（子育ての悩み等）や学校との連携も必要である。

■地域移行支援部会・暮らし支援部会

◆開催日時

【第1回】平成27年11月26日（木）

【第2回】平成28年2月24日（水）（予定）

◆メンバー 26人

せせらぎ、グリーンヒル、大垣市柿の木荘、ゆう、障がい者生活支援センター、

障がい者就労支援センター、障害者相談支援事業所、ジーバケアサービス、マーセリン、ワークステーション大垣、かがやき、ひまわり学園、大垣病院、西濃病院、養南病院、西濃保健所、大垣警察署、包括支援センター、市社会福祉課事務局

◆テーマ

「精神障がい者と高齢者世帯への支援について」

◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・事前アンケート（高齢者世帯と精神障がい者で問題となっている事例）の結果について参加者と情報共有し、どのような問題が起きているのか、同様の事例が増えていることの共通認識を図った。
- ・実際の事例を通して、問題解決の方法や今後の課題について、各関係機関の立場から検討を行った。
- ・事前のアンケート結果により、「精神障がいを持つ同居の親族が高齢者の支援者（ケアマネージャー等）に対する拒否が強く、介入が困難となっているケース」など、両親の高齢化に伴い、高齢者と精神障がい者の双方からの支援が必要となってきている。
- ・実際の事例を通しての支援方法の検討について
 - ・それぞれの意向を確認し必要な支援を行うとともに、近所の方による見守りも必要である。
 - ・高齢者のグループホーム利用や精神障がい者の日中活動の場の確保により、生活の場を分離する。
 - ・精神障がい者の病院への定期的受診を促し、服薬管理の支援が必要である。
 - ・精神障がいと言っても多様なので、その症状にあった支援が必要である。
- ・今後について
支援の組み立てについては、目標を明確にし、地域で生活する上で自治会長や民生委員の協力が不可欠なため、部会にも参加していただく予定である。

■相談支援部会

◆開催日時

【第1回】平成27年8月18日（火）

【第2回】平成28年3月24日（木）予定

◆メンバー 25人

せせらぎ、グリーンヒル、大垣市柿の木荘、けあ・わーくす大垣、障害者生活支援セ

ンタープラス、ジーバケアサービス、緑の丘生活支援センター、心牧園マーセリン、ワークステーション大垣、障害者相談支援事業所、ゆう、西美濃の里はびねす、みるきいうえい、相談支援事業所かがやき、ひまわり学園、市社会福祉課事務局

◆テーマ

「アセスメント方法について」

◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・相談支援事業所から、アセスメント方法についての事例発表を行い、アセスメント方法の振り返りと検討を行った。
- ・発表を受けて、各相談支援専門員がアセスメントを振り返り、アセスメントシートに必要な情報項目に合わせて修正することや情報収集項目の追加など改良が必要であることに気付くことができ、丁寧なアセスメントや相談支援の重要性を確認した。
- ・アセスメント方法を振り返り意見交換を行う中で、相談支援専門員同士の関係作りと情報共有の場となった。
- ・障害福祉サービスの受給者証の交付方法に関して、相談支援事業所から提案があったため、今後、市で検討する。

就労支援部会

◆開催日時

【第1回】平成27年7月28日（火）

【第2回】平成28年2月23日（火）（予定）

◆メンバー 29人

心牧園ココペリ、ネクステージ、障害者福祉支援センター、シュシュ、クローバーネットワーク、おひさま園、いぶき作業所、工房さんぽみち、かわなみ作業所、かがやきネットワーク、ハーモニー大垣、パン工房ドリーム、新家大垣、Noto カレッジ、GCC 大垣校、バーチャルメディア工房ぎふ、大垣市障害者団体連絡協議会、大垣公共職業安定所、西濃障がい者就業・生活支援センター、大垣市障がい者就労支援センター、大垣特別支援学校、市社会福祉課事務局

◆テーマ

「障害者就労施設等からの物品等の調達について（報告）」

「一般就労への移行・定着支援における企業、支援機関、障害者就労施設等の連携について」

◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・市役所における障害者就労施設等からの物品等の調達について報告を行った。
- ・就労支援事業所より就労移行・定着支援において、関連する事業所とどのように連携しているかの事例発表を受け、グループワークを行った。
- ・それぞれの就労支援事業所がどのような取り組みを行っているのか、得意分野は何かなどを把握することができず、実際に利用者を次の段階へ引き継ぐことが難しい現状があるため、事業所同士が顔を合わせ、互いの事業所について知る機会が多くあるとよい。
- ・各事業所の取り組み内容やどのような利用者を受け入れ可能か、ステップアップを図りたい利用者に関する情報などを集約し、共有できるような仕組みが作られるとよい。
- ・今後の部会で、各事業所に関する情報共有の具体的な方法について検討していく。

■権利擁護部会

◆開催日時

【第1回】平成27年10月20日（火）

【第2回】平成28年1月22日（金）

【第1回】

◆メンバー 22人

身体障害者福祉協会大垣支部、手をつなぐ親の会、肢体不自由児・者 障害児・者父母の会、視覚障害者福祉協会、かわなみ作業所父母の会、柿の木荘保護者会、パン工房ドリーム保護者会、重症心身障害児・者親の会、大垣特別支援学校、西濃地域精神障害者家族会いぶき会、西濃地域成年後見支援センター、市高齢介護課、大垣市社会福祉課事務局

◆テーマ

「成年後見制度利用支援について」

「障害者差別解消法について」

◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・「成年後見制度利用の支援について」をテーマに講師を招き、制度の概要の説明と疑問点などについて質疑応答を行い、制度の理解を深めるとともに、今後の課題について協議を行った。

- ・「障害者差別解消法について」をテーマに、概要と職員の対応要領（骨子案）について説明し、事前に各障害者団体に「障がいのある方への配慮や対応に関するアンケート」を行った結果の報告を行い、今後の取り組みについて協議を行った。
- ・成年後見人の介入できる範囲について
⇒主に財産管理、施設利用の契約などができるが身上管理はできない。契約等の法律行為を適切に行うための判断能力に欠けている人に対しては、代わりに法律行為を行うことができる。
- ・成年後見制度について、市民に対しPRを行い、相談窓口の職員も制度について理解を深めて欲しい。
⇒理解に向けてのPRなどを考えていく必要があるため、相談支援専門員を対象とした勉強会の開催等を検討する。
- ・障がい者の差別に関して、民間企業の上層部は「差別解消法」について理解していると思うが、社員までは周知されていないのではないか。
⇒民間企業における合理的配慮は努力義務となっており、国が指導することとなっているため、現時点では市の介入は難しいが、今後も理解啓発に努めていく。
- ・窓口での代筆や手話通訳の派遣などに対応してもらえるのか。
⇒申し出に応じて対応していくが、急な手話通訳の派遣など対応できない場合はその理由を説明し、代替案を提示するなどの対応をしていく。

【第2回】

◆メンバー 30人

グリーンヒル、けあ・わーくす大垣、福祉サービス利用支援センター、緑の丘、大垣警察署、柿の木荘、ジーバケアサービス、よろず相談・地域連携課、障害者生活支援センター、西濃保健所、ゆう、心牧園マーセリン、障害者生活支援センタープラス、西濃子ども相談センター、ハートブリッジ、障がい者相談支援事業所、ワークステーション大垣、西美濃の里はびねす、地域包括支援センター、大垣特別支援学校、ひまわり学園、市保健センター、市高齢介護課、市子育て支援課、市社会福祉課事務局

◆テーマ

「障がい者虐待防止ネットワーク会議」

◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・「障がい者虐待防止ネットワーク会議」として開催し、大垣市障害者虐待防止センターの事例についてグループワークを行い、虐待問題に対してどのように支援・対応をしていくか検討を行った。グループごとの発表から見えてきた課題や新しい取り組みに

について検討を行い、市や関係機関でどのように連携していくか協議を行った。

- ・虐待者にとって、被虐待者と一緒に暮らしていることが大きなストレスとなっており、そのために虐待を繰り返している現状から、被虐待者を施設やグループホームに入れて分離する必要がある。
- ・分離を行うことも大切だが、事例によっては簡単に分離できない状況も多くある。何度も話を聞いて当事者らにとって良い形で支援をしていくことが重要。
- ・自宅にヘルパーなど他者を入れて見守り支援を行うことや、公的扶助も考えていく必要がある。
- ・警察、学校に問い合わせた時の対応や、子ども相談センターと市子育て支援課の連携の仕方など、様々な関係機関の対応について確認することができ、それぞれの事例に合わせて各関係機関との連携を密にしていくことで、新たな解決方法を見出せることを確認した。